

# 十和田市事務事業評価シート

## 【事務事業の概要】

整理番号	③-19	実施計画番号		事業開始年度	
事務事業名	長寿祝金の見直し			事業終了年度	
担当課名	高齢介護課			事務の種類(選択)	
根拠法令等	十和田市長寿祝金条例		関連事務事業		
背景や経緯等	昭和45年の制度創設当時に比べ、高齢者人口及び平均寿命が大幅に伸びている。今後ますます高齢化が進む中で、健康長寿への支援として、高齢者の健康づくりや介護予防施策をより推進するため、長寿祝金を支給について見直しを行う。				
事務事業の目的	高齢化により増加する長寿祝金事業を見直し、健康長寿に向けた効果的な活用を図る。				
実施状況	見直し案として、満88歳長寿者に対する、祝金1万円の贈呈を記念品の贈呈に変更する。満88歳と満99歳の長寿者に顕彰状を送る。				

## 【人件費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
正職員	従事者数(人)	1	1	2
	活動日数(日)	48	48	30
	人件費(千円)	1,728	1,728	2,160
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

## 【事業費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
事業費合計(千円)		4,424	4,671	4,414

## 【指標】

活動指標	活動指標名①		祝金等の額(祝金・顕彰状・記念品)				
	計算式等	単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定		
活動指標	活動指標名②						
	計算式等	単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定		
成果指標	成果指標名①		祝金等の額(祝金・顕彰状・記念品)				
	計算式等	単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定		
			目標値	4,423,092	4,670,274	4,410,695	
			実績値	4,423,092	4,670,274		
			達成度(%)	100%			
	成果指標名②						
	計算式等	単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定		
		目標値					
		実績値					
		達成度(%)					

# 十和田市事務事業評価シート

## 【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由	
<b>妥当性</b>	① <b>市民ニーズ等から見る妥当性</b> 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	<b>存在意義の見直しの余地</b> 0 / 4 高齢人口及び平均寿命が伸びる中、更なる健康寿命の延伸が望まれる背景から、今回は88歳の祝金について見直しを実施。これまでもその時々々の状況を把握し内容の見直しを実施している。今後も状況の変化に応じて見直しは必要である。	
	② <b>実施主体である妥当性</b> 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2			
<b>有効性</b>	③ <b>活動指標から見る有効性</b> 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	5	27年度見直しを実施した。来年度は経過措置を含むため、成果は見えにくい、29年度は見直した分のコストの削減の効果がでてくると思われる。今後対象者の増加状況によっては、99歳の祝金についても見直しが必要となることが考えられる。	
	④ <b>成果指標から見る有効性</b> 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2			
	⑤ <b>事務事業の見直しの余地</b> 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1			
<b>効率性</b>	⑥ <b>事業費の削減の余地</b> 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	B	1	5	コスト削減は可能だが、28年度については、経過措置期間となるため、祝金の支給、記念品の贈呈、顕彰状贈呈等事務量の増加は見込まれる。見込まれる事務手順の方法について改善を図りながら進めていく。	
	⑦ <b>他の事務事業との統合・連携</b> 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2			
	⑧ <b>民間委託等</b> 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2			
<b>公平性</b>	⑨ <b>受益の偏り</b> 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	<b>受益者負担適正化の余地</b> 0 / 4 満88歳、満99歳、の年齢に達した長寿者に対して、公平に、長寿を祝福し、社会に貢献した功績を讃え、労をねぎらうためのものである。	
	⑩ <b>受益者負担の見直しの余地</b> 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2			
<b>現在の適性</b>					<b>18 / 20</b>	<b>改善の余地</b>	<b>2 / 20</b>

## 【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **18** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **2** 点です。

## 【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ※事業終了年度がH27の場合は回答不要 ⇒

**効率性を改善して継続**

### 方向性の理由 ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

業務量として、どの程度の事務量になるかこれまでと大きく内容が変更しているため、把握しづらい状況がある。実施計画を綿密にたて効率よく実施していく事が必要。

### 今後の具体的な取組方策と狙う効果 ※事業終了年度がH27の場合は、『事業を実施したことにより今後見込まれる効果』を記載してください。

顕彰状・記念品に関する事前準備・発送に関する事務の増加については業務量を測定する。又、見直した内容について丁寧な周知を行うしていく。